

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	15 - 学 - 4
-----------------	------------

平成15年度配分 研究成果の概要

研究名	バーチャル・ミュージアム“産業考古学館”の教育・展示・調査の試行、ならびに学習プログラム開発に関する研究				
配分を受けた特別研究費	学長 特別研究費 3,000千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の場合の分担
	文化政策学部	文化政策学科	教授	種田 明	産業考古学・博物館学の視点から、国内外を比較研究統括
共同研究者	デザイン学部	生産造形学科	教授	伊坂 正人	商品学・マーケティングの視点から、バーチャル・ミュージアムを総合的に検証する
	文化政策学部	文化政策学科	教授	佐々木 崇暉	地域経済論の視点から地域の産業と大学のあり方[ミュージアムの可能性]をさぐる
	デザイン学部	空間造形学科	教授	渡邊 章瓦	建築デザインの視点からバーチャル・ミュージアムの特性を考察する
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: ① ニュースレターを創刊 (「IA News」 Vol.1) ② 調査報告書[渡邊・佐々木・種田] 『〔浜北市〕遠州織物記念館構想(案) 調査報告書』		発表日	平成16年03月03日 平成16年03月15日	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

1. 「はままつエリア」から起業した産業の歴史的展開(産業史の研究)
2. 現在の「はままつエリア」に集積した企業群像の調査(企業史の研究)
3. これからの「はままつエリア」はどうなるか。

特に都市と産業の環境、まちづくり、ものづくりをシミュレーションする。

上記3点に関する調査研究・問題提起・解釈と解説・将来像への示唆をバーチャル・ミュージアムとして試行的に発信し、学内外の議論と認識の深化に寄与する。

(平成15(2003)年2月の申請・計画書に記載した事項)

(研究の実施方法等)

当初、「バーチャル・ミュージアム」作成 PC の購入、または作成を専門機関・業者等へ委託する予定であったが、学内環境(機器・維持管理・組織と人、その他)と予算を勘案し、「バーチャル・ミュージアム」の基礎となるデータ・ベースづくり、および“博物館構想”のさらなる広報、県・市・企業等各方面との交流・ネットワークの強化を図ることへ研究の実施方法等を若干修正した。

期間の途中:9月、浜北市(生涯学習課)から、平成16年3月に操業停止する「日清紡浜松工場(浜北市貴布祢)」の調査及び評価を、本研究チーム(渡邊・佐々木・種田)に“緊急委託”したいとの申し入れがあり、企画室を通して「本研究の延長上に位置する調査」として受託した。

(得られた成果等)

ニュースレター:『IA News Vol.1』を、木村学長からの寄稿をいただき創刊した。

(IAはIndustrial Archaeology:産業考古学、の略称)

執筆者:木村尚三郎(学長)、種田、佐々木、渡邊、伊坂

調査報告書:『[浜北市]遠州織物記念館構想(案)調査報告書』

執筆者:渡邊・佐々木・種田(本研究チーム)

玉川寛治(織機・技術史研究者)、浜北市職員

くなお、完成した『調査報告書』を、本研究チームはなおまだ受領していないため、成果物としての提出はできない。それゆえ、平成16年度発行の「ニュースレター」に研究エキスを掲載する予定である。>